一、去未之年以來唯今迄之知行當り借用之分は、無利足に而、自今之知行當之內に立込可申候。然ば來年中他國幷地廻往還仕者は、來々戌年暮より五ヶ年に返上、來年中他國幷地廻往還無之者は、來酉年暮より五ヶ年返上之趣に候事。

一、去未年以來只今迄之知行當之外過借之分は、自今之知行當之內に立込不申、別に無利足に而、來酉年暮より五ヶ年返上之事。

但、他國幷地廻往還に付、知行當之分返上無之年は、右過借之分も返上御用捨之事。

右之通來酉年より被仰付候旨、被仰出候條、可被得其意候事。

（寶暦二年）壬申十一月

以上

會所裁許御貸銀、他國當百石一貫目充、地廻六百目充致借用、無利足に而五ヶ年之年賦を以返上之筈に候得共、御上御勝手御難澁至極に而、可貸渡會所銀茂拂底に罷成候。右銀子皆御借銀を以貸渡來候に付、是以後茂御借銀を以可貸渡外無之候。依之來正月より借用之人々、他國當五百目充、地廻りは三百目充、利足は一ヶ月百目に付五朱充之圖を以、元銀之分借用之翌年より五ヶ年之年賦を以返上、利足之分は毎歲年切に指上可申事。

一、當正月より今月廿九日迄、他國當り百石一貫目充、地廻當六百目充借用之人々は、證文不相改內は、今年之證文之通無利足を以、來年より五ヶ年に返上可仕事。

但、來正月以後證文相改候者は、其改候月より百目に付一ヶ月五朱充加利足、返上可仕事。

一、御切米等被下候人々は、他國當三百目、地廻當二百目、利足等右同前之事。

右之通來戌正月より相改候條、可被得其意候事。

（寶暦三年）癸酉十二月

會所裁許御貸銀之儀、他國當五百目、地廻三百目充致借用候得共、御勝手御難澁、御要脚必至と指支、可貸渡會所銀一向無之、御かり銀を以可貸渡外無之候。依之享保十年被仰渡御貸渡之例に立歸、他國・地廻當共、別紙之通當分減少御貸渡候筈に候條、被得其意、組・支配之人々に茂被申渡、尤同役中可有傳達事。

右之趣可被得其意候。以上。

八月廿七日　奥村主水

會所銀知行當之覺

一、他國詰人等百石に付三百目充之事。

但、利足は唯今迄之通、百目に付五朱充之圖を以、元銀之分は借用翌年より五ヶ年之年賦を以返上、利足は毎歲年切に指上可申候。右年限より指詰返上之儀は、尤勝手次第之事。

一、御領國・地廻之分、百石に付二百目充之事。

但、返上之趣等右同事。

一、新番以下御扶持方・御切米被下候人々は、他國詰人等百五十目充、地廻之分百目充返上之趣等、前段同事。

一、知行當借用之翌年、他國地廻往來之節證文相改候儀、可爲前々之通候。但、借用之內一兩年分返上之上、他國幷地廻往來之節證文改、知行當之高に引足借用之分、是又勝手次第之事。

一、人により知行當りより內借用之人々茂、右御定之通五ヶ年に返上之事。

一、他國急御使、又は御用之品により無據趣有之、右當りに而不足仕儀候者、頭・支配人精誠吟味之上年寄中に相達、各別之趣承屆、其段年寄中より會所率行に申渡、百石五百目、御切米取は三百目當り迄は貸渡可申事。

一、唯今迄百石五百目充知行當借用之人々は、證文相改候迄者年限之通返上仕、他國往還等に而證文相改候節は、右知行當り三百目充之外は過借に相成候事に候條、此分致返上、證文改可申候。御切米・御扶持方被下候人々茂、右同前之事。

但、過借之分は、其時々相願返上延引之儀は各別之事。

右之通當分被仰付候旨、被仰出候條、可被得其意候事。

（寶暦六年）丙子八月

九　聖堂銀貸附之儀御定

聖堂銀一卷